



▲今年5月にあいの沢で行われた園遊会



#### 黛まどかさんプロフィール

50句で第4回角川俳句賞競演賞を受賞。女性たるけの俳句結社「月刊ヘップバーン」代表。

1999年北スペイン・サンチャゴ巡礼道を踏破したのに続き、2001年8月より韓国釜山からソウルを走破中（「韓國俳句紀行」として講究新聞にて連載中）

2002年5月、句集『京都の恋』にて第2回山本健吉文学賞受賞。主な句集に『B面の妻』、『花こうじ』、主な著書として『ら・ら・ら』（岩波）

半分は友にさしかけ白日傘  
牛の瞳に空の色ある小春かな  
君想ふ指が葡萄を食べてゐる  
父と子の影を重ねて今日の月  
この辺がよろし二人の花筵  
雨の日は雨音が好きクロツカフ  
あひづちの寝息と変はり夜長し  
秋祭兄のにほひの肩車  
水打つて夫と二人の夕餉かな  
妻と旅いま夕焼けの日本海  
秋桜摘む傍らに夫の居る  
虫の名を夫と当て合ふ良夜かな  
亡き夫に語りたきこと菊薫る  
身籠りて子の戻りくる十三夜



▲あいの沢に設置された「愛の句碑」

## 愛の俳句 50選決まる

## ～それぞれの愛 17文字の言葉に託して～

—第2回 爰の句碑事業—

「愛」をテーマに全国に俳句の募集を行い、すでに多くの作品を石に刻んで句碑にする愛の俳句事業。

今年で2回目となつたこの事業に、家族や恋人などへの愛のメッセージを17文字に託したすばらしい作品が、日本全国から2881句も寄せられました。

今回も、選者の黛まどかさんによつて50の優秀な俳句が選ばれましたのでご紹介します。

今後50句はみかけ石に刻まれ、あいの沢の一角に設置されます。

初蝶の君の腕に来て止まる  
逝く夫を花で囲んで凍の月  
手花火や病む母見えるところにて  
出稼ぎの父を迎える春火鉢  
裏口にいつも母ゐて帰省かな  
母の座に母ゐて春の立ちにけり  
吾亦紅口ビーに古稀の妻を待つ  
伸びる影よせて寒九の夫婦杉  
風花や夕日は山には人は灯に  
花守の花の下にて老ひにけり  
白薔薇のときには崩れたき夜も  
咲き満ちて白木蓮は母の花  
短日や母が入りてしまい風呂  
父焚きし跡に父への門火焚く  
逝きし娘の部屋そのまゝに秋簾  
雜煮餅湯気の向ふに妻がいて  
母の手の皺深きまで日焼せる  
祖父母となりて秋晴れの富士仰ぐ  
鬼灯の艶ひときわに妻逝きぬ  
遣されしキルト仕上げて望の月  
父の字で届く小包秋茜  
牛の背に子を乗せて來る草刈女  
緑蔭に待ちて今来しばかりとふ  
故郷は母のふところつるし柿  
子牛無事生まれし夜の銀河濃し

高倉早智子	大塚 雅彦	橋本 研二	橋原 梅庵	杉原 研二	高倉早智子	橋本 研二	橋原 梅庵	杉原 梅庵	福島県双葉郡双葉町
西内 正清	玉川 悠	藤田 美恵子	熊澤 踏生	松下 美奈子	西内 正清	玉川 悠	藤田 美恵子	熊澤 踏生	福島県福島市
松村 竹心	堀木 直子	田原 卜三工	西浦 武義	高橋 愛子	松村 竹心	堀木 直子	田原 卜三工	西浦 武義	福島県沼田市
宮城県仙台市	東京都日墨区	愛知県名古屋市	福島県相馬郡鹿島町	福島県小城郡牛津町	高加照輔 大方町	大友紀一 横山	市澤 齊藤	中村 時雄	福島県喜多方市
福島県沼田市	群馬県沼田市	福島県名古屋市	福島県相馬郡鹿島町	福島県喜多方市	佐賀県小城郡牛津町	市澤 齊藤	丹治 由己	小野内 雅子	福島県喜多方市
福島県沼田市	福島県沼田市	福島県名古屋市	福島県喜多方市	福島県喜多方市	福島県喜多方市	大友紀一 横山	市澤 齊藤	丹治 由己	福島県喜多方市
福島県沼田市	福島県沼田市	福島県沼田市	福島県沼田市	福島県沼田市	福島県沼田市	福島県沼田市	山本祐子	武山 良三	福島県沼田市
福島県沼田市	福島県沼田市	福島県沼田市	福島県沼田市	福島県沼田市	福島県沼田市	福島県沼田市	保泉きよ子	中山 恵子	福島県沼田市
福島県沼田市	福島県沼田市	福島県沼田市	福島県沼田市	福島県沼田市	福島県沼田市	福島県沼田市	武山 良三	良子	福島県沼田市